健康栄養学研究科

健康栄養学専攻

科目名	食品・臨床分析学演習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
最新の分析機器の原理・使用方法を学び、統計学的手法と併せて分析化学の概念を習得する。

[授業概要]
食品成分や生体成分の分析は、栄養・健康をキーワードにする上では最も重要な内容である。本演習では、各種機器分析法の原理の理解と、これらの装置を利用しての食品成分の定量分析を行う。また、生体成分には微量な成分も多く、それらを定量するには、ELISA法を用いての定量が主流である。そのため、ELISA法の意義・原理を学び、実際に生体成分を定量することで技術の修得を行う。さらに最新の分析技術の論文を精読し、食品・臨床分析の理解を深めていく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
大学時代に学んだ生化学、食品分析学など、分析に関係した内容を再度見直し、分析化学とはどういうものかを理解しておくこと。

[授業計画]
1. ガイダンス
2. ELISA法の原理と利用法①
3. ELISA法の原理と利用法②
4. ELISA法の原理と利用法③
5. 臨床現場で利用される装置の原理と利用法①
6. 臨床現場で利用される装置の原理と利用法②
7. 2.～6.を利用した定量分析演習①
8. 2.～6.を利用した定量分析演習②
9. 各種分析技術を用いた論文精読と発表①
10. 各種分析技術を用いた論文精読と発表②
11. 各種分析技術を用いた論文精読と発表③
12. 各種分析技術を用いた論文精読と発表④
13. まとめ

[成績評価方法]
演習時に作成するレポート

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
臨床分析学のサブノート（学部1年時に購入済）　著者名：安井裕之、吉川豊

出版社：京都広川書店

[参考書（ISBN）]

H20900150 [GHB6-001]　　[1健康栄養学専攻]*後期金6

科目名	運動・機能生理学フィールドワーク	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直、木村　あい		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
それぞれの年代における体力の現状を理解し、健康で長生きするために必要なことや将来にむけた課題改善の方法を身につけることを目標とする

[授業概要]
子どもから高齢者、障がい者アスリートを対象としたスポーツ・運動・メンタルを通して、健康の維持や機能低下予防、また身体が不自由になった場合の対応等について実技指導を中心に実施する

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
子どもから高齢者、障がい者の健康・体力の実態と健康管理の方法、疾病予防の基本的事項を確認し、予習と復習に4時間程度使ってください

[授業計画]
1.メンタルヘルス対策の基本と実施方法の修得 （奥野）
2.マインドフルネス ①(奥野)
3.マインドフルネス ②(奥野)
4.マインドフルネス ③(奥野)
5.マインドフルネス ④(奥野)
6.Activity of Daily Livingの向上① （奥野）
7.Activity of Daily Livingの向上② （奥野）
8.障がい者の概念（障がいの医学モデル、社会モデル、ICFモデル等） （木村）
9.障がい者の実態① （木村）
10.障がい者の実態② （木村）
11.障がい者スポーツの歴史と意義 （木村）
12.障がい者アスリートのニーズと支援 （木村）
13.障がい者スポーツを通しての共生 （木村）

[成績評価方法]
2名の教員がそれぞれ出す課題（100%)の平均で評価する
課題への取り組み姿勢と理解度を解説します

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布等

[参考書（ISBN）]

科目名	健康栄養学特別総合研究	～2025年度	10 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
これからの栄養・運動・福祉の各分野において必要不可欠な先端分析を学び、in vitro、in vivo実験により食品成分、サプリメント成分、新規化合物が生体に及ぼす影響を評価することを目的とする。特に、ミネラル成分に着目し、その新規生理作用の発見、また、その生理作用が現われるメカニズムの解明に取り組む。具体的には、生活習慣病の予防を目的とした新規ミネラル含有成分の探索研究、運動や疾病による体内のミネラルレベルの変動の網羅的解析を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他

以上の内容を1年次前期～2年次後期150コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成として論文を作成し、さらにその研究発表を行い、最終審査により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

H20900190 [GHI6-004]　　[健康栄養学専攻]*2024年度から2年集中

科目名	健康栄養学特別総合研究	～2025年度	10 単位
サブタイトル			
担当者	斎藤　あつ子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
微生物は、感染症を引き起こすだけでなく、体内に常在して健康に影響するとともに、発酵などを通して食を作ることでも、人の健康に影響を与えている。逆に、食は、直接人の健康に影響するだけでなく、体内の常在微生物、時として、感染症の動向をも左右することにより、健康に影響を与えていると考えられる。微生物と食が相互に関与しながら、健康に与える影響について他面的に理解することを目標とした科学的研究を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他
以上の内容を1年次前期～2年次後期150コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成として論文を作成し、さらにその研究発表を行い、最終審査により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	健康栄養学特別総合研究	～2025年度	10 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
中心研究テーマとして、水分代謝と運動能との関連について、これまで生体のhomeostasisの調節にはhierarchyが存在することを指摘し、運動能への影響においては体液の調節が最も精度が高いことを証明してきた。体液が生体に及ぼす影響を研究することを目的に、特に、日常の栄養摂取が及ぼす体液量の増加が最大酸素摂取量などの体力要素や他の運動能力に与える影響や熱中症対策としての脱水予防について、その効果的な方法と生理的メカニズムの解明に取り組む。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。
１日の時間配分を決め、無駄な時間を使わないようにしてください。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他

以上の内容を1年次前期～2年次後期150コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成として論文を作成し、さらにその研究発表を行い、最終審査により評価する。
論文の完成度について説明します。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	健康栄養学特別総合研究	～2025年度	10 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
人は乳児期から高齢期に至るまで様々な場所で給食を摂っている。給食は単に空腹を満たすのみならず、健康の増進や栄養の改善にも大きく寄与している。このような給食について、主として食事・栄養管理を必要とする対象者への対応方法を研究する。特に、保育所や学校、高齢者福祉施設での対応状況を実地調査したり、これら施設の食に関して生じている課題を解決するための方策を検討したりすることにより、施設の問題点や対象者の食生活の改善を図る。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他

以上の内容を1年次前期～2年次後期150コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成として論文を作成し、さらにその研究発表を行い、最終審査により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	健康栄養学特別総合研究	～2025年度	10 単位
サブタイトル			
担当者	松本　衣代		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
コメディカルの現場で必要とされる実践力の修得を目的とし、高い実践能力が必要とされるフィールドワークに必要な技法の全て、すなわち、フィールドの選定、質的データの取り扱い、量的データの取り扱い、調査の計画、交渉、立案、実施、成果の分析、成果のフィールドへの還元方法までを視野に入れた一貫した指導を行う。とりまとめた成果について討議を行い、報告書を作成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他

以上の内容を1年次前期～2年次後期130コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成として論文を作成し、さらにその研究発表を行い、最終審査により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	健康栄養学特別総合研究	～2025年度	10 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
健康の維持・増進のためには、生活習慣、特に適度な身体活動と栄養バランスの良い食事を継続することが重要である。年齢・地域が異なる様々なヒトを対象に、生活習慣に関わる健康問題について検討することを目的に、活動量および身体組成（体脂肪量・筋肉量・骨量）の測定ならびに生活活動記録、食事記録または食物摂取頻度、生活習慣に関する質問紙などを用いて調査を行い、エビデンスに基づいて理解を深め、考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他

以上の内容を1年次前期～2年次後期150コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成として論文を作成し、さらにその研究発表を行い、最終審査により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

H20900190G [GHI6-004]　　[健康栄養学専攻]*2024年度から2年集中

科目名	健康栄養学特別総合研究	～2025年度	10 単位
サブタイトル			
担当者	木村　大輔		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
免疫は、生体調節・防御作用を担い生体恒常性にとって必要不可欠なシステムである。食材に含まれる様々な外来因子が免疫機能を調節することが明らかとなりつつある。食材と免疫の相互関係を学び、疾病予防に関わる新たな機構を探求する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
修士論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他
以上の内容を1年次前期～2年次後期150コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成としての論文作成、且つその研究発表を行い、最終審査により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	健康栄養学特別総合研究	前期	10 単位
サブタイトル			
担当者	木村　大輔		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
研究課題の設定、文献調査、成果を、指導教員と詳細に議論し、研究計画を立案する。論文の作成にあたり、問題把握・解決、研究・実験、資料の取り扱い、分析・考察等を適切で確実に行うことができる能力を身に付け、それぞれの研究テーマに沿った論文作成に向けて指導する。

[授業概要]
免疫は、生体調節・防御作用を担い生体恒常性にとって必要不可欠なシステムである。食材に含まれる様々な外来因子が免疫機能を調節することが明らかとなりつつある。食材と免疫の相互関係を学び、疾病予防に関わる新たな機構を探求する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
修士論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。

[授業計画]
1.課題として取り扱う研究テーマ・先行研究の調査を文献調査から実施する
2.教員や学生同士で討議を行い、研究課題を明確にする
3.研究計画の立案、実験・調査方法を検討する
4.実験・調査結果の解析とディスカッションを実施する
5.研究成果の中間発表会を実施する
6.研究計画の確認・修正、追加研究を実施する
7.研究成果の修士論文発表会を実施する
8.その他
以上の内容を1年次前期～2年次後期150コマの中で実施する

[成績評価方法]
研究の集大成としての論文作成、且つその研究発表を行い、最終審査により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	健康栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊、奥野　直、木村　大輔		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
健康栄養学の基本的概念について理解し、説明する能力を身につける。

[授業概要]
幅広い視点から健康にアプローチし、栄養・健康・精神面のサポートにおける分野の論理的な思考力を学び、生活の質の向上に向けて積極的に社会貢献する力や新しい知識の修得を目指す。具体的には、最新の生命科学とバイオテクノロジーをベースにした、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康の深いかかわりを学修し、かつ、人が健康に長生きするための社会行政の役割と心のケアなど、健康と栄養・福祉をつなぐ専門的知識と技術、並びにそれらを発信する方法を修得することを目的とする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
健康栄養学に関係する教科書、学術雑誌、新聞記事などを熟読し、臨むこと。

[授業計画]
1-3
「健康栄養学」の基本的概念について導入的解説を行い、教授内容から個々の学修方針を明らかにする。
（吉川　豊・奥野　直・木村　大輔）

4-13
最新のテクノロジーをベースにした健康と栄養の話題を教授する。特に健康と疾病予防の最新の話題を栄養学的観点から概説する。
（吉川　豊／4回）

健康の維持・増進と疾病予防・改善の方策について教授する。特に食生活と免疫変調の関係を概説し、健康栄養学観点からその対策について考える。（木村　大輔／3回 ）

健康がメンタルヘルスに及ぼす影響について教授する。体調とメンタルヘルスは多くの場合リンクし、そのメカニズムについて概説する。
（奥野　直／3回）

[成績評価方法]
各教員の課題により評価します。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	栄養生理学・疫学特論	後期	2 単位
サブタイトル	食品中の成分及びその栄養機能特性が人の健康に及ぼす影響		
担当者	木村　大輔		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
食物と健康との関係を栄養学、栄養生理学、栄養疫学的視点から学んで、運動を含めた現代人の生活習慣の疾病への影響を理解する。

[授業概要]
『食生活と健康』をキーワードに超高齢化社会といわれる21世紀の現代社会において、食の要因が健康の保持・増進と疾病の予防・治療にどのような影響を及ぼすかを世界の栄養疫学データや最近の研究報告から解説、又、受講学生からもテーマを絞って文献検索して報告させる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと

[授業計画]
1. 導入　授業の進め方について
2. 食生活について
3. 社会環境変化に伴う食生活と栄養
4. 食生活と健康（1）メタボリックシンドローム
5. 食生活と健康（2）生活習慣病
6. 食生活と健康（3）骨粗鬆症
7. 食生活と健康（4）アレルギー
8. 食生活と健康（5）感染症
9. 食生活と健康（6）睡眠
10. 学術論文の抄読・討論（1）
11. 学術論文の抄読・討論（2）
12. 学術論文の抄読・討論（3）
13. 総合討論・まとめ

[成績評価方法]
発表（100%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	食品機能･加工学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
食品成分をはじめ、食品の栄養特性と機能特性、栄養特性と機能特性を高める食品の加工方法、新規食品・食品成分が健康に与える影響、新規食品・食品成分の疾病予防に対する役割などについて理解する。

[授業概要]
近年、化学技術の進歩は目覚しく、食品成分の機能に関する活発な研究が行なわれ、健康維持と疾病予防を目的とした新しい食品が次々と開発されている。本講義では、食品の栄養特性と機能特性、栄養特性と機能特性を高める食品の加工方法、食品成分の理解、新規食品・食品成分が健康に与える影響、新規食品・食品成分の疾病予防に対する役割、最新の加工技術と栄養機能の情報などについて学修する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎回の授業を復習し、理解を深め、次回の授業に備えること。

[授業計画]
1. 各種食品成分
2. 食品表示と規格基準
3. 加工食品の流通
4. 加工食品の栄養
5. 加工食品の安全性と人体への影響と評価
6. 食品の歴史的変遷と食物連鎖
7. 食品の栄養特性と機能特性
8. 栄養特性と機能特性を高める食品の加工方法
9. 安全と嗜好の特性を高める食品の加工方法
10. 衛生管理の方法
11. 新規食品・食品成分が健康に与える影響
12. 新規食品と食品成分が疾病予防に対する役割
13. 最新の食品加工の技術と栄養機能の情報

[成績評価方法]
レポート（100%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]

科目名	分子栄養学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
生化学、ならびに、分子生物学の基礎から応用までを幅広く学び、成体における栄養の代謝や疾患とのかかわりを分子レベルで説明できるようになること。

[授業概要]
分子栄養学は、病気を予防する・病気を改善するという発想に起因する分野で、分子生物学と生化学の融合した学問である。体内で起こっているどのような反応が、人が生きていく中で必要なのか、人の健康・病気の予防・治療を考える上で、最も基礎となる学問でもある。人の体を分子レベルで理解し、健康状態を維持・改善するために必要な体内での代謝反応を解説し、病気にならないためには、また、病気を未病の状態で維持するためには、という観点から考察できる力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
大学時代の生物学・生化学講義・実験内容を復習して、講義に挑むことが望ましい。

[授業計画]

1. ガイダンス
2. 三大栄養素の代謝と生体への影響①
3. 三大栄養素の代謝と生体への影響②
4. 三大栄養素の代謝と生体への影響③
5. 2.～4.の学術論文の抄読と発表①
6. 2.～4.の学術論文の抄読と発表②
7. 2.～4.の学術論文の抄読と発表③
8. ビタミン・ミネラルの代謝と生体への影響
9. 8.の学術論文の抄読と発表①
10. 8.の学術論文の抄読と発表②
11. 遺伝子の構造・発現・調節、栄養摂取と生活習慣病
12. 11.の学術論文の抄読と発表①
13. 食品企業における最新の話題と健康社会に向けて （学外特別講師；株式会社神明　藤尾益雄　代表取締役社長）

（講義の順番は変更することがあります）

[成績評価方法]
講義中に提出するレポート（50%）・プレゼンテーション（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし　出版社：なし

[参考書（ISBN）]

科目名	健康科学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
健康科学とは、健康な状態から病気に陥る過程や健康である状況をいつまでも維持・増進するための取り組み方を科学的に証明するものである。修士課程のテーマに必要な基本的内容を理解し、参考文献をわかりやすくプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。

[授業概要]
修士論文の作成に必要な参考文献を集取し、その内容をわかりやすくプレゼンテーションする。
発表時間は一人15分程度、1回の授業で3名が発表、発表回数は一人4回程度

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
関連資料を収集・分析し、課題に向けた適切な準備ができるようにする。
予習・復習に4時間程度使ってください。

[授業計画]
1.テーマに必要な文献について
2.テーマ関連論文プレゼンテーション1－①
3.テーマ関連論文プレゼンテーション1－②
4.テーマ関連論文プレゼンテーション1－③
5.テーマ関連論文プレゼンテーション2－①
6.テーマ関連論文プレゼンテーション2－②
7.テーマ関連論文プレゼンテーション2－③
8.テーマ関連論文プレゼンテーション3－①
9.テーマ関連論文プレゼンテーション3－②
10.テーマ関連論文プレゼンテーション3－③
11.テーマ関連論文プレゼンテーション4－①
12.テーマ関連論文プレゼンテーション4－②
13.テーマ関連論文プレゼンテーション4－③

[成績評価方法]
発表内容100%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント、論文配布

[参考書（ISBN）]

科目名	給食経営管理特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
給食利用者の特性の違いによる，栄養・食事管理のあり方の違いを説明できるようにする。利用者が望む給食について列挙できることを目標とする。

[授業概要]
給食経営管理のうち，主として「栄養管理」について学ぶ。
講義を主とするが，課題に対するレポート作成，発表も行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学部レベルの給食経営管理に関する知識を必要とする。
十分な復習をしておくこと。

[授業計画]
1.給食経営管理の関連法規
2.栄養・食事のアセスメント
3.栄養・食事の計画 (1)
4.栄養・食事の計画 (2)
5.栄養・食事計画の実施
6.栄養・食事計画の評価
7.栄養・食事計画の改善
8.品質管理，生産管理
9.施設の特性（児童福祉施設）
10.施設の特性（学校）
11.施設の特性（事業所）
12.施設の特性（高齢者・介護福祉施設）
13.まとめ

[成績評価方法]
授業態度（40%）　レポート（40%）　発表（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	社会福祉特論	前期	2 単位
サブタイトル	健康栄養学のための社会福祉		
担当者	植戸　貴子、曽田　里美、津田　理恵子、下司　実奈、泉　妙子、佐々木　勝一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
健康栄養学における専門的基礎として、社会福祉の基本的知識を獲得するとともに、健康栄養学の研究や実践に必要な社会福祉の知識について理解することを目標とする。

[授業概要]
健康で文化的な生活を営むための社会福祉とは、そのために相応しい社会福祉のあり方とは、といった基本的な理解を促すことを目指す。そのために社会福祉対象者の生活や社会福祉実践の場面で生起する具体的な課題から福祉問題を捉え、社会福祉の価値、社会福祉の制度、社会福祉のフィールドといった柱を建てて講義する。さらに健康栄養分野で働く人にとって社会福祉の意義、社会福祉分野で働く栄養士の職務についても言及する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
予習（2時間）
・新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておく。
・教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問する。
復習（2時間）
・板書をしないので授業内容をまとめておく。
・新出の専門用語を用語辞典等で調べて内容を再確認しておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション・社会福祉の基礎（植戸）
2. 生活支援（泉）
3. 栄養と介護（泉）
4. 高齢者にとって懐かしい味（津田）
5. 味覚を刺激する意味（津田）
6. 社会福祉施設の現状と課題-現状分析（佐々木）
7. 社会福祉施設の現状と課題-課題の検討（佐々木）
8. 連携と協働　発達障害児・者とその家族への支援（下司）
9. 連携と協働　精神疾患をもつ子どもとその家族への支援（下司）
10. 子どもの貧困（曽田）
11. 社会的養護（曽田）
12. ソーシャルワークとは（植戸）
13. 障害のとらえかた（植戸）

[成績評価方法]
・授業への取り組み態度15%、小レポート35%（5%×7回）、最終レポート50%の配分で評価する。
・取り組み態度は、毎回の授業で行うディスカッションへの貢献度で評価する。
・レポートは、担当者毎の小レポートと最終の振り返りレポートとする。採点後に評価コメントを付して返却する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜資料配布する。

[参考書（ISBN）]

科目名	栄養衛生学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	木村　大輔		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
栄養学や衛生学などから健康を理解する。

[授業概要]
医学の進んだ現代でも我々の健康を脅かす阻害要因は未だに多い。本講義では，健康について栄養学的，免疫学的，衛生学的観点から学び，理解することを目標とする。特に，健常者の栄養と生活習慣との関係に関する疫学的及び実験的研究内容を取りあげるが，その他に高齢者，摂食・嚥下障害者，食物アレルギー児の栄養問題についても触れる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
健康や栄養に関するニュース等に関心を持って日常生活を過ごす。各回，予習・復習合わせて4時間程度の学修を行う。

[授業計画]
1. ガイダンス
2. 栄養の疫学（統計学を主体に）
3. 栄養の疫学（統計学を主体に）
4. 食事と健康
5. 栄養と生活習慣
6. 高齢者の栄養疫学
7. 摂食・嚥下障害者の栄養疫学
8. 免疫
9. アレルギー（主に食物アレルギーについて）
10. 食物アレルギー児の栄養疫学
11. 感染症と衛生学
12. 感染症と衛生学
13. まとめ

[成績評価方法]
授業中の課題

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし（プリントを配布）

[参考書（ISBN）]

科目名	国際栄養学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松本　衣代		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
栄養調査の方法を理解し，各自で立案，計画，調査を実施できる事を目指す

[授業概要]
国際栄養に必要な視野の一つとして，その地域の栄養学的な特徴を知る事，並びに問題点が抽出された場合にはその解決策を講じる事などが挙げられる。本講義では，栄養調査の手法を学ぶ事を通して，国際的な栄養問題を例に挙げながら講義を進める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
食と健康に関する国内外の情報に興味を持ち，新聞，ネットニュース，医学雑誌等を検索しておく。

[授業計画]
1. 栄養調査の研究方法①
2. 栄養調査の研究方法②
3. 栄養調査の研究方法③
4.論文抄読①
5.論文抄読②
6.論文抄読③
7.論文抄読④
8.調査立案①
9.調査立案②
10.データのとりまとめ①
11.データのとりまとめ②
12.集積データの地域還元①
13.集積データの地域還元②

[成績評価方法]
受講態度（50%），課題（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
随時資料配布

[参考書（ISBN）]
なし　著者名：{臨床研究に携わる人のためのe-leaningサイトhttp://www.icrweb.jp/}

科目名	食生活特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
現代の食生活に関する様々な課題に対して，管理栄養士・栄養士として取り組むべき課題を5点以上挙げ、他者へ説明できることを目標とする。

[授業概要]
日本及び海外における食生活の課題を把握し，これをどのようにすれば改善できるかについて追究する。
講義の他に，課題に対するレポート作成，発表も行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学部レベルの食生活論に関する知識を必要とする。
十分な復習をしておくこと。

[授業計画]
1.人間の食行動について
2.食生活の機能と構造について
3.幼児期の食生活と健康
4.青年期の食生活と健康
5.成人期の食生活と健康
6.高齢期の食生活と健康
7.様々な疾病と栄養と・食生活
8.世界の食生活史
9.日本の食生活史
10.食の安全と食環境
11.食品表示
12.食育の推進
13.まとめ

[成績評価方法]
授業態度（40%）
レポート（40%）
発表（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

科目名	スポーツ栄養学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥、坂元　美子		

[実務経験のある教員による授業]
○（坂元）

[到達目標]
　年齢やライフスタイルによって、個人にとっての運動の目的は異なる。個々の食事や運動、身体データ等の調査やその事例から、それぞれの健康づくりに関する課題解決方法、個人に合った最適な運動や食事、栄養指導法等についての知識を修得する。

[授業概要]
（糸井担当/5回）健康の維持・増進、疾病予防のためには、日常生活における適度な運動（身体活動）と栄養（食事）による健康づくりは欠かせない。児童生徒・若年女性などを対象に、身体活動・食事・身体組成・体力・生活時間を調査した事例を基に、健康づくりに適した運動と食事のあり方について学修する。

（坂元担当/8回）学童期からプロスポーツ選手まで、様々なライフスタイル別に発達段階や身体機能にあわせて、理想的な食事の提案ができる知識と栄養指導のスキルを身に付ける。実際に、スポーツや運動をしている人の食事調査や身体組成などの測定値から問題点の把握と原因分析を行い、改善のための効果的な栄養指導の方法を導き出すことができるよう学修する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業を復習し、理解を深め、次回の授業に備えること。

[授業計画]
1. 児童生徒・若年女性を対象にした調査事例①（糸井亜弥）
2. 児童生徒・若年女性を対象にした調査事例②（糸井亜弥）
3. 児童生徒・若年女性を対象にした調査事例③（糸井亜弥）
4. 学術論文によるディスカッション①（糸井亜弥）
5. 学術論文によるディスカッション②（糸井亜弥）
6. 学童期スポーツ選手の食事調査と栄養指導（坂元美子）
7. 学童期スポーツ選手を対象にした調査事例（坂元美子）
8. 学術論文によるディスカッション①（坂元美子）
9. 思春期スポーツ選手の食事調査と栄養指導（坂元美子）
10. 思春期スポーツ選手を対象にした調査事例（坂元美子）
11. 学術論文によるディスカッション②（坂元美子）
12. プロスポーツ選手の食事調査と栄養指導（坂元美子）
13. プロスポーツ選手を対象にした調査事例（坂元美子）

[成績評価方法]
レポート（100%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布（糸井）
坂元美子編　著者名：化学同人　出版社：978-4-7598-1709-6

[参考書（ISBN）]

科目名	予防栄養学・医学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	斎藤　あつ子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
病気の発症や進行、または病態に、栄養・食生活が深く関与していると考えられる疾患について、栄養・食生活と病気の関連性を含めてわかりやすく説明することができる。

[授業概要]
食生活が関与して発生したり、病気の進行や病態に影響を与えたりすると考えられるまたは可能性のある疾患について列挙し、興味ある疾病を選択し、それらの疾病の特徴と治療法・予防法を中心に教員とともに主に教科書、必要に応じて文献を抄読して学習し、栄養管理が治療・予防に果たす役割について討論することを通して、疾病の治療・予防に関わる栄養管理・指導についての知識・理解を深めるとともに、得られた知識や理解した内容をまとめ発表する力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃より栄養・食生活が関与する疾患について専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。
各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。

[授業計画]
1. オリエンテーション　自己紹介等によるコミュニケーションの実践
2. 疾病の列挙と選択　授業の進め方の決定
3. 疾病の特徴についての学習・発表など①
4. 疾病の特徴についての学習・発表など②
5. 疾病の特徴についての学習・発表など③
6. 疾病の治療法・予防法についての学習・発表など①
7. 疾病の治療法・予防法についての学習・発表など②
8. 疾病の治療法・予防法についての発展的学習・討論・発表など①
9. 疾病の治療法・予防法についての発展的学習・討論・発表など②
10. 疾病の治療法・予防法についての発展的学習・討論・発表など③
11. 疾病の治療法・予防法についての発展的学習・討論・発表など④
12. 疾病の治療法・予防法についての発展的学習・討論・発表など⑤
13. 全体のまとめ

[成績評価方法]
プレゼンテーションand/orレポート作成70%
授業への積極的参加姿勢とその内容30%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
林　洋　著者名：羊土社　出版社：978-4-7581-2085-2 （栄養科学イラストレイテッド
臨床医学 疾病の成り立ち第3版
）
羊土社　　著者名：978-4-758-11367-0

科目名	臨床栄養学・医学特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	斎藤　あつ子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
病気の発症や進行、または病態に、栄養・食生活が深く関与していると考えられる疾患について、栄養・食生活と病気の関連性を含め、わかりやすく説明することができる。

[授業概要]
食生活が関与して発生したり、病気の進行や病態に影響を与えたりすると考えられるまたは可能性のある疾患について列挙し、興味ある疾患を選択し、それらの疾患の特徴について教員とともに教科書や文献を抄読し、内容について討論することを通して、疾患の知識・理解を深めるとともに、得られた知識や理解した内容をまとめ発表する力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃より栄養・食生活が関与する疾患について専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。
各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。

[授業計画]
1. オリエンテーション　自己紹介等によるコミュニケーションの実践
2. 疾患の列挙と選択　授業の進め方の決定
3. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表①
4. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表②
5. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表③
6. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表④
7. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表⑤
8. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表⑥
9. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表⑦
10. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表⑧
11. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表⑨
12. 教科書または文献抄読・討論・まとめ・発表⑩
13. 全体のまとめ
（授業の進み具合や学生の希望などによって、進め方や内容を変更する場合があります。）

[成績評価方法]
プレゼンテーションand/orレポート作成70%
授業への積極的参加姿勢とその内容30%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
林　洋　　著者名：羊土社　出版社：978-4-7581-2085-2

科目名	臨床栄養管理学フィールドワーク	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	斎藤　あつ子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
栄養士の資格を有する本学の大学院生が、病院の栄養管理業務の補助を行いながら、臨床の場を経験することにより、
・病院栄養士として活動するに必要な技術を修得する。
・病院栄養士として活動するに必要なコミュニケーションおよび自ら考え行動する能力を修得する。
・実践活動と関連して、給食経営管理の基本的事項と手順、効率化について理解し説明できるようになる。
・NST（Nutrition Support Team）をはじめとするチーム医療に参画する専門職としての役割を理解し説明できるようになる。

[授業概要]
科目担当教員による事前指導を受けたのち、医療法人財団　神戸海星病院（予定）において、栄養士免許を持つ大学院生として、原則56時間（例：1日8時間×7日間）、臨床栄養実習を行い、主に、病院の栄養管理業務を補助し、健康管理・疾病管理のための栄養学について実践的に学ぶ。科目担当教員による、事後指導では、学んだ内容を報告し、質疑応答し、全体を総括する。
隣地実習の時期は、令和5年7月中旬～9月中旬を予定している。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学部在籍中に学んだ臨床栄養学について復習しておくことが必須である。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。

[授業計画]
1 事前指導：オリエンテーション(斎藤)
　・実地実習施設の特徴の把握
　・医療施設での注意事項の説明

2 臨地実習： 56時間
①監督者の指導のもと、患者個々の状態に応じた食事や栄養剤などの調整を行う。
②実習病院の手順に従い、栄養管理計画の基本を理解し、比較的軽症な症例のアセスメント及び計画案を作成し、監督者に報告する。
③院内外のカンファレンスやセミナー、勉強会、抄読会、諸学会や研究会などに参加する。
④診療報酬請求のための基本的事項を理解し、監督下で実施する。
⑤監督者の指導に従い、その他の栄養管理業務の補助を行う。

3 事後指導：全体の総括(斎藤)
　・臨地実習の内容について報告/レポート
　・質疑応答

[成績評価方法]
報告/レポート（１００％）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]

H20900170 [GHI6-002]　　[1又は2健康栄養学専攻]*前期集中

科目名	国際栄養フィールドワーク	前期	2 単位
サブタイトル	International fieldwork program in health and nutrition in Bali island, Indonesia.		
担当者	松本　衣代		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
インドネシア・バリ島でのフィールドワークを通して、健康・栄養・福祉の現状と対策等を学びぶ。国際的な感覚と視野を持った世界の舞台で活躍できる栄養のプロフェッショナル、人材育成に繋がるきっかけ・動機付けとなるような実践的研修を目指す。

[授業概要]
インドネシア共和国立バリ州（バリ島）にあるインドネシア国立ウダヤナ大学と神戸女子大学の提携によって企画された国際栄養フィールドワークプログラムで、急激な発展途上にありdouble burden of nutrition に直面するインドネシア・バリ島において、過剰と不足という世界の健康問題の二極化の一例として、現状と対策について学ぶ。ウダヤナ大学医学部及び大学病院スタッフの協力、指導の下、都市部や地域、農村部の保健所、各福祉施設(児童養護施設、高齢者施設等)、小・中・高校等の訪問や調査を実施し、現地スタッフとの共同研究調査を通して国際栄養への理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃より世界的視野をもって関係するニュース等に関心を持ち，衛生統計について事前に学習しておくこと（各回，予習復習合わせて1時間程度）

[授業計画]
1.事前指導
(1)オリエンテーション
(2)インドネシアにおける共同研究と健康・栄養調査
(3)インドネシア、バリ島の社会と歴史・言語
(4)インドネシアの保健・医療事情①
2.臨地実習（ウダヤナ大学における研修）
(1)オリエンテーション
(2)ウダヤナ大学付属病院内研修－栄養指導・給食業務－
(3)高齢者施設訪問・見学
(4)地域保健施設訪問・見学
(5)女子高生貧血予防キャンペーン①　講習会実施
(6)女子高生貧血予防キャンペーン②　貧血検査、食生活調査
(7)調査結果のまとめとディスカッション
(8)総合討論・まとめ
3.事後指導
(1)研修報告会
＊2.臨地実習(1)～(8)の担当はウダヤナ大学医学部スタッフとする
＊インドネシアへの渡航が安全でないと判断される場合は、国内で2.臨地実習を実施する。

[成績評価方法]
評価割合：事後報告会での発表（50%），研修後レポート（30%），事前指導中提出のレポート（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]